

---

Air...

水城翼

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A i r . . .

### 【Nコード】

N 4 2 0 7 F

### 【作者名】

水城翼

### 【あらすじ】

この小説は、ニコニコ動画に投稿されているVOCALOID KAITOオリジナル曲「A i r . . .」に感動して勢いで書いてしまったものです。愛だけは詰まっているので、ぜひどうぞ！

## インストール（前書き）

この小説は、Y様（アリアP）が制作されたオリジナル曲「Air・」を原作としたものです。

小説はともかく、原曲はすばらしいものなので、ぜひ聴いてみてください。

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm3277052>

インストール

「VOCALOID KAITO インストールを  
実行しますか  
?」

薄暗い部屋に、唯一の光であるパソコンの明かりだけが、いやにまぶしく光っていた。

「YES」

「VOCALOID KAITO インストールを 実行します」



「インストールが 完了しました」

「VOCALOID KAITO 起動します」



「…初めまして、  
…貴方が、僕のマスターですか？」

…これが、僕とマスターの出会いだった。

## インストール（後書き）

ようやく投稿できました！

念願の「A i r . . .」！

てか短いすねw

ごめんなさい。

掲載許可をくださったY様。ありがとうございました。

## 笑顔

「初めまして。K A I T O。俺が、お前のマスターだ。」

僕の目の前に立っていたのは、眼鏡をかけた20代くらいの男性だった。

この人が…僕を買った…僕の所有者…<sup>マスター</sup>

「はい。よろしくお願いします。マスター。」

暗い倉庫の中で、ずっと待ち望んでいた存在。

「V O C A L O I Dを扱うのは初めてだが、精一杯努力はさせてもらうよ。お互い頑張ろう。」

「はい…っ！よろしくお願いします！」

僕は嬉しくて、嬉しくて。  
声を弾ませ、返事をする。

「それにしても、まさか初めて買うV O C A L O I Dが「K A I T O」で、「初音ミク」じゃないなんて俺も考えてなかった。」

マスターが僕のほうを見て、照れくさそうに頭をかいた。

「初音ミク」…。僕の後に発売された新型のV O C A L O I D 2だ。ネット上では、「初音ミク」と「K A I T O」は兄妹関係のようにされている。

「K A I T O」のほうが先に作り出されたV O C A L O I Dだから、

K A I T Oは兄の立場とされていた…はずだ。

「マスター。ではなぜ、「初音ミク」より先に僕を買ったのですか」

「うん？ああ、俺も本当は「初音ミク」を先に買おうと思っていたんだけどな。」

マスターはすっ、と目を細めて、懐かしそうにどこか遠くを見ていた。

「「初音ミク」を買いに店に行ったんだが、そのときに「K A I T O」のデモソングが店に流れていたんだ」

そしてマスターは笑顔で僕に向き直って、

「そして「K A I T O」の歌声に魅了された。衝撃が、走ったのを今でも覚えているよ。」

「マスター。僕の歌を聴いたのは、それが初めてだったのですか？」

「ん？いや、「K A I T O」の歌声は、聴いたことはあったんだが…ぶっちゃけ、お前はただのアイス好きのネタキャラだと思ってた。」

マスターのそんな発言に、僕は思わずなんとも言えない気持ちになった。

「マスター…。それは…」

「でも。だからこそ。お前の本気の曲を聴いての衝撃も大きかったんだ。」

「…マスター…」

「ま、っわけで、よろしくな。お前の本気、見せてくれよ。」

「はいっ！」

## 笑顔（後書き）

マスター 酷っ。

というわけで久しぶりの更新となりました。

またしばらく更新できそうにないんですが、精一杯頑張ります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4207f/>

---

Air...

2010年10月10日04時48分発行